

NPO法人 福寿の里自然倶楽部

調査団体名 : NPO法人 福寿の里自然倶楽部 団体代表者名 : 渡会三治
 設立年 : 2011(平成23)年4月 対応してくれた人の名前 : 渡会三治、横光八洲男
 団体URL : <http://fukujyu-no-sato.com/>
 活動拠点 : 岐阜県恵那市上矢作町 調査員 : 近藤 朗、浜口美穂、安藤里恵
 取材日 : 2013年11月8日 レポート作成者 : 安藤里恵

活動内容

- ・過疎化と高齢化が進む上矢作町に少しでも活気を取り戻したいということで、NPO法人 福寿の里自然倶楽部を立ち上げた。信号もコンビニもない町だが、約10haの「アライダシ原生林」(正式名称:アライダシ自然観察教育林)をはじめ手付かずの自然だけはどこにも負けない。北の南限と南の北限の自然が融合した地域にあるアライダシ原生林は、他に類を見ない珍しい植生が見られる。霊峰大船山、その山腹にある大船神社はかつて信仰の山として村人の永遠の心のふるさとである。境内には樹齢2,500年とも言われる巨樹の弁慶杉があり、また近隣の標高1,000mある大船牧場では360度のパノラマが楽しめ、これらを巡るエコツアーを実施している。
- ・12月には間伐体験(人工林:ヒノキ・スギ)も行っている。

キャッチフレーズ

自然の宝庫上矢作 ～自然と遊ぶ 自然と学ぶ～

会のモットー(何を大切にしているか)

- ・上矢作や原生林を訪れた人々に心安らぐ感動を提供したい。取り組みを通して上矢作の自然の素晴らしさを少しでも知っていただけたらいいと思う。「また来たいな」という思いが生まれれば最高である。
- ・信号もコンビニもないが、手付かずの自然だけはあり、どこにも負けない誇りを持っている。

設立から現在に至るまで変化したこと

- ・設立から3年目になるが、多くの人たちが上矢作町を訪れてくれて、自然とふれあう中で自然の素晴らしさや大切さなどを感じていただいていることが一番うれしい。恵那市にこんな素晴らしい自然があるのかと皆さんびっくりして帰られる。だんだん知名度が上がってきたなと感じている。

連携している団体・専門家・自治体など

- ・恵那市役所ふるさと活力推進室、観光交流室、農業振興課、岐阜県恵那市農林事務所農業振興課、恵那市観光協会、上矢作まちづくり委員会、恵那市観光協会上矢作支部、上矢作道の駅ラフォーレ福寿の里、上矢作農産物加工所ふくちゃん工房、上矢作石川トマト農園

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

- ・自然体験活動プログラムを展開(エコツーリズム事業)／アライダシトレッキングツアー、大船山・松並木トレッキングツアー、子ども自然キャンプ、星空観察会など。
- ・町内観光地周辺環境保全事業／創造の森、大船山牧場遊歩道、モンゴル茶屋、矢作川源流の森・復興の森の草刈り・伐採など。
- ・間伐体験

現在直面している課題

- ・NPOを設立して3年目。手付かずの自然資源を案内するエコツーリズム事業(COOP岐阜が全面協力)を展開してきて、着実にツアー参加者は増加している(2011年:152名、2012年:315名、2013年:341名)が、まだまだ、プログラムの内容が一面的であったり、参加者の地域が岐阜県内外・美濃市など固定的である。地元の中学生は学校として来るが、それ以外に地元の人は訪れない。大きな広がりにはなっていない。広報、宣伝不足の感は否めない。近隣の子どもたち以外にも、矢作川流域など広く活動・周知・交流できることが最大の望みである。

今後やってみたいこと

- ・宿泊をセットにした自然体験プログラムを取り入れたい。
- ・矢作川流域圏の上流と下流での交流を行いたい。
- ・愛知県三河地方の人々が参加できるような体制をつくりたい。
- ・大学生を連れてきて教育体験プログラムを行いたい。
- ・いろいろな団体とコラボできるツアーを組みたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

- ・情報＝三河地方の山村体験に関心のある団体。
- ・人脈＝専門的および教育的視点で中山間地域の地域づくりに対し協働で取り組める産学関係者。
- ・矢作川流域「圏」での交流をどんどん広げていきたい。

チームオリジナルの質問

<質問内容> ツアーガイドが伝えたいことは？

<答え> 原生林を通して、人の営みを伝えたい。何を学ぶか、何を知るか、知ったことをどう活かすかを重要視している。ただのガイドではなく、インタープリターとしての立場の確立が必要である。

その他、伝えたいこと

・略歴

1994(H6)年 恵那郡上矢作町と東濃森林組合の管理者が原生林を残す方向で動き出す。

2004(H16)年 まちづくり委員会が運営を行う。

2011(H23)年 NPO法人 福寿の里自然倶楽部が発足する。

・エコツーリズム日程・・・5月10日前後～11月後半まで

・以前は幡豆郡吉良町(現 西尾市)と上矢作町で交流があったが、合併により地域の特色が失われてしまった。

・上矢作町の高齢化率は現在40%。担い手は高齢化し、若者は都会や近隣の恵那市などに出ていってしまう。

・町内にある国民健康保険上矢作病院や老人ホーム福寿苑には、外から働きに来る人しかいない。

・大船山牧場には岐阜県内唯一の風力発電があるが、現在はほとんど稼働しておらず、エコツアーとして利用が危ぶまれる。

・豊田市や岡崎市など流域圏の子どもたちと交流をしたいという思いがとてもあった。まずは事例集づくりのメンバー全員で視察と交流を兼ねて、アライダシ原生林トレッキングツアーを5月に実施してもらう予定。

写真



←福寿の里事務所の入っている、奥矢作木センター玄関

↓事務所内にて(左から):横光八洲男さん、渡会三治さん、取材者(近藤、安藤)



↓玄関にて(左から):取材者(浜口、近藤)、渡会さん、横光さん

